

## 委員会等の会議録

1 会議名	第2回愛南町海業推進会議	
2 議題	愛南町の海業推進について	
3 開催日時	令和5年9月20日(水) 10時00分から12時20分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5 傍聴者数	3人	
出席者		
6 委員氏名	大野 甲子彦、大森 安洋、河野 仁、後藤 理恵、佐伯 謙、 関根 麻里、高橋 翔、田中 純樹、田中 翔、永元 将博、 濱 哲也、濱本 涼、深堀 毅、前田 眞、向田 和広、 森 裕之、山本 正文、ヤング 亜由美、若松 隆仁	
7 担当所属	所属名	水産課海業推進室
	担当職員 (職・氏名)	室長補佐 清水 貴光 係長 廣瀬 琢磨、清水 陽介 主査 吉原 勇作 主事 本田 美紀、賀屋 啓太、中村 一喜 地域おこし協力隊 柳田 亮介
8 その他の 出席職員	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	副町長 木原 荘二
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
清水室長補佐	<p>定刻になりましたので、ただ今から第2回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。</p> <p>それでは開会に当たりまして、愛南町副町長木原荘二から御挨拶を申し上げます。</p>
木原副町長	(開会挨拶)
清水室長補佐	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。これから第一部に移ります。ここからは、懇話会の要綱に従いまして座長を水産課長の濱に引き継ぎます。</p>
濱座長	<p>本日もお忙しいところたくさんの委員の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>始めに、第1回目のこの会で皆様に自己紹介をしていただいています。第1回目に欠席された委員の皆様には簡単に自己紹介をしていただければと思います。よろしくお祈いします。</p>
委員各位	(自己紹介)
濱座長	<p>それでは、第1回海業推進会議の振り返り等について、海業推進室の浜辺から御紹介させていただきます。よろしくお祈いします。</p>
浜辺委員	<p>御手元の資料に沿って簡単に御紹介します(以下説明概要)。</p> <p><b>【第1回の振り返りについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回では、第一部で海業について私と李委員とパネルトークを行い、事例や海業は誰が進めていくものなのかについて紹介しました。</li> <li>・第二部では、グループワークを実施し、各グループに活発な御議論をいただきました。</li> <li>・Aグループは、環境保全、海ごみ、SDGsに焦点を当て、ごみの再資源化や海岸漂着物について議論されました。</li> <li>・Bグループは、地域資源課題に焦点を当て、各施設の情報ネットワーク構築について議論されました。</li> <li>・Cグループは、課題の解決策と資源を活用する基盤を自分事化して関わる仕組みづくりについて議論されました。</li> <li>・各グループのアイデアと費用対効果について、事務局にて取</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>りまとめを作成しました。</p> <p><b>【第1回会合以降の取組の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回会合以降、海業推進室で実施したイベント、意見交換、広報取材について簡単に紹介します(資料を基に紹介)。</li> </ul> <p><b>【小中学生アンケート結果の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学4年生から中学3年生までに愛南町の好きなところ、嫌なところ、他の人にお勧めしたいコト、モノについて、更にそれらが20年後どうなっているかについて、アンケートを取りました。</li> </ul> <p>主なものを紹介すると、好きなところには、食べ物や海、自然が豊かなところ、イベントがいっぱいあり、人が温かいところが挙げられました。20年後も好きなところは変わらないという期待が込められていた一方、環境変化やゴミに対する考えも述べられていました。</p> <p>嫌なところは、交通インフラが弱い、災害が差し迫っている、遊びや買い物場所が少ないなどが挙げられました。20年後にはこれらが増える、変わる、楽しい町になっているという期待が込められていました。ポジティブな話だけではないこともどこかで示さなければならないと感じました。</p> <p>お勧めしたいコト(体験)は、アクティビティ、食べ物、イベントが挙げられました。実際に体験したコトが20年後にも続いてほしいという願いが込められていると感じました。</p> <p>お勧めしたいモノ(場所)は、サンパールプール、高茂岬、あけぼの荘の温泉、石垣の里、紫電改などが挙げられました。20年後には施設が新しくなっているという期待が述べられていました。</p> <p>アンケートの最後に、未来の愛南町への願いを聞き取りました。自分たちが暮らしていく生活者の視点と、来訪者に魅力を紹介するコンシェルジュの視点の二つが述べられていました。</p> <p>生活者の視点では、食事、買い物の場所を増やしてほしい、仕事の選択肢、給料を増やしてほしい、交通利便性を上げてほしい、図書館又は多世代が交流する場所、くつろげる場所がほしい、進学先の選択肢を増やしてほしい、森林管理や海ゴミの問題も真剣に考えてほしいといった具体的な意見がありました。</p> <p>コンシェルジュの視点では、食や自然を体験できる場所や</p>

発言者	発言内容
濱座長	<p>機会を増やしてほしい、愛南町の魅力を伝える施設を作ったり、国内外に魅力を発信して知名度を向上させたりしてほしいといった意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議論する我々大人は、これをどんどん深めた話を展開できればと考えています。</li> </ul> <p><b>【作文と絵の説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートと同時に、未来の愛南町について作文と絵を書いでもらいました。皆さんに審査していただきたいと考えています。</li> </ul> <p>審査は、未来への豊かな発想に基づいて表現されていることをポイントにして選んでいただければと思います。</p> <p>作文は9月27日まで、絵は会場後ろに張り出していますので、本日の休憩時間や会議終了後に投票いただければと思います。</p> <p>私からは以上です。</p> <p>浜辺委員ありがとうございました。質問は第一部の最後で受け付けたいと思います。</p> <p>次に「海業振興による地域経済活性化の方向性・可能性」について、水産庁の委託業者である株式会社価値総合研究所から発表していただきます。よろしくお願ひします。</p>
鴨志田氏	<p>皆さんこんにちは。株式会社総合研究所の鴨志田と申します。今日は、海業推進による地域経済活性化の方向性・可能性について説明します。</p> <p>(以降、資料に沿って説明。以下ポイントを記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済活性化には、「地域資源を生かして域外からお金を稼ぐこと」と「地域内でお金を回す」という二つが重要</li> <li>・前者は、お客さんにたくさん来ていただいて、お金を落としとして売り上げを伸ばすということ。一方、それだけではあまり地域経済の活性化にはつながらないこと。</li> <li>・後者は、稼いだお金を地域内の取引に回していくということ。なるべく地域の中で原料や素材を調達することで所得の循環構造が生まれ、地域経済の活性化につながる。</li> <li>・2018年のデータでは、愛南町の経済規模は「生産・販売」が537億円であり、労働生産性は全国平均と比べて低い。域外から獲得した所得を含めた「分配」は767億円で、約200億円</li> </ul>

発言者	発言内容
	<p>を域外から獲得している。地域内で消費される「支出」が 537 億円であり、263 億円が域外に流出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外からお金が入ってきても地域の中に残らない経済構造になっていると分析できる。</li> <li>・人口一人当たりの地域住民所得は、全国 1,719 自治体中 1,530 位となっている。</li> <li>・これらを踏まえて海業振興を考えていく必要がある。</li> <li>・分析を進めると、水産業は町外から所得を多く獲得しており、食料品製造・加工業や卸売業は町外への流出が多いことから、地域内取引へのポテンシャルがあると言える。</li> <li>・最大の強みである海や漁業を生かし、水産業と町内の各産業との取引を活発化させ、所得の好循環を起こしていける可能性がある。すなわち町内産業の「総海業化」という方向性が考えられる。</li> <li>・例えば各漁港、地区の特徴を生かした加工、直売、観光といった事業展開、関連サービス事業の創出などが考えられる。</li> <li>・スモールスタート的にやっていくことも大事</li> <li>・未利用資源の価値化、水産業と他の産業、町民生活との一体化なども考えられる。</li> <li>・仮定のもと、観光客数が 7 万人増え、観光客一人当たりの支出金額が 10% 増加し、地域内調達率が 10% 増加した場合、全体で 19 億円、住民一人当たり約 10 万円、愛媛県の平均水準に匹敵する所得を獲得できる経済効果が期待できることになる。</li> <li>・引き続き皆様のアイデアを参考にさせていただきながら検討の支援をさせていただく。</li> </ul>
<p>濱座長</p>	<p>鴨志田様、ありがとうございました。</p> <p>ここまでで質疑を受けたいと思います。浜辺委員からの振り返り、価値総合研究所の発表など、それぞれ質問等ありましたら挙手をお願いします。</p>
<p>田中(純)委員</p>	<p>愛媛CATVの田中です。経済波及効果など全体的に資料も分かりやすいのですが、どれくらいの投資をすると、これくらいの経済波及効果があると考えていますか。</p>
<p>鴨志田氏</p>	<p>投資額ということですが、具体的な計画や内容によって大き</p>

発言者	発言内容
	<p>く変動します。例えば少しでも皆が町内の物を買うように変わるだけで、調達率が10%増加する可能性があります。そうなれば極端な話、投資ゼロでできる面もありますし、一方で、物を作り売るとような施設を建てる場合には、それなりの投資額が必要になります。投資額は、皆さんの意見やアイデアに基づいて調整されることが予想されます。そのため、現時点では具体的な投資額をお伝えするのは難しいところです。</p>
<p>濱座長</p>	<p>そのほか、ありませんか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>TMKstudioの大野です。食料品製造加工について、かつては栄えていた町だったと思いますが、徐々に衰退していった過去の経緯を考えると、ポテンシャルがいかされなかった可能性が考えられます。例えばはごろもフーズのような大企業が愛南町に進出することは難しいように思いますが、どのような感じでどのくらいの規模を目指せば良いのか、具体的な案があればお願いします。</p>
<p>鴨志田氏</p>	<p>ありがとうございます。我々も食料品製造加工業の衰退について承知していますが、改めて経済分析すると、域外に頼っている現状です。大企業の参入は悪い話ではありませんが、利益は本社に流れる傾向があるため、地元資本と地元企業が小さくても何かしらちょっとずつ取り組み、付加価値も付いてちょっとずつ大きくなっていく、それをきっかけに加工業を中心とした裾野が広がっていくことが重要だと考えています。具体的な規模感については現時点では申し上げづらいところで、ちょっとずつ取り組んでいくところから始めるというのが私の考えです。</p>
<p>濱座長</p>	<p>それでは、これもちまして第一部を終了します。先ほど浜辺委員から説明がありましたが、会場の後ろに絵を展示しています。休憩の間に投票をお願いします。</p> <p>(休憩)</p>
<p>濱座長</p>	<p>それでは第2部のグループセッションを始めます。進め方等を浜辺委員に説明していただきます。</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>今回は、先ほどの振り返りでも触れましたが、五つのストーリーから、AからDの四つのテーマを設定しています。好きなテーマのテーブルに集合し、課題の解決策も含め、自由に深掘りしていただきたいと思います。途中、移動タイムを設けますが、その際、それまでの議論の内容を伝える一人は残ってください。その後は、それまでの議論を深化させていただくという手法で60分実施したいと考えています。</p>
濱座長	<p>次に前田委員にワークショップのポイントをお話させていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
前田委員	<p>ワークショップの基本的なベースの意見合わせができたらと思います。先ほど説明があった愛南町の経済をどう考えるかがベースで、これから出てくる皆さんのアイデアをどう繋げていくかを考えています。</p> <p>先ほどのお話を愛南町の経済でバケツに捉えると、今愛南町が持っているお金があり、それは外から稼ぐ水産業、サービス業、娯楽業、小売業辺りから稼ぐ部分になっています。ですが、稼いだお金がいろいろな形でどんどん外へ出ていく仕組みになっているという話でした。食料品、製造、加工辺り、イメージが付きにくいかもしれませんが、卸売業や宿泊観光でも出ています。飲食でも、中で食べる人たちはお金を落としてくれますが、外から仕入れていますので、入ったものを外へ吐き出しているという関係です。</p> <p>先ほどの将来的なイメージでいうと、この吐き出している分をやめて、経済を中で回していくと愛南町は少し豊かになる、そして雇用が生まれたりします。少なくとも愛南町で働きたいと思っている人、諦めて外へ出て行った人たちが中へ戻ってくれるかもしれません。すると、人口減少対策にもつながる部分があります。特に、食品製造加工、卸売業、宿泊飲食に関わる人たちが入ってくるものをうまく使って循環していけたら良いと思います。</p> <p>これらをベースにアイデアを考えるとき、先ほどの話で、町外から稼いだ分を含めると767億円あるお金のうち300億円ほどは町外へ出てしまっています。この300億円を地域の中でいかに回していくのかを考える必要があります。例えば町内の水</p>

発言者	発言内容
濱座長	<p>産業を活用した宿泊や飲食の仕組みを作ることで、お金が町内に残ります。それらをイメージしながら、四つのテーマで皆さんがこれやったらいいよねと思うことがたくさん生み出されていくと良いです。これらのアイデアが共感をよんだあと、どのようにするのかの問題になってきますので、最初のアイデアが大事だと思います。その辺を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。そのような形で議論が深まれば良いなと思っています。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速グループワークに移ります。ここから先は、浜辺委員にお願いします。</p>
浜辺委員	<p>お示したテーマについて皆さんの関心のあるところにお集まりいただき、自由に議論をしていただければと思います。御不明な点は、いつでも言ってください。また、議論の行き詰まりや疑問点などありましたら、価値総研の皆さんや事務局に聞いていただいても構いません。よろしくお願いします。</p> <p>(グループワーク前半 30 分)</p>
浜辺委員	<p>それでは 30 分経過しましたので、グループ移動を可能とします。ほかに興味があるグループがある方は移動して、議論を更に深めてください。結論付けるというより、とにかく具体的な内容を皆さんに議論していただきたい時間ですので、今日は話をどんどん進めていただきたいと思います。</p> <p>(グループワーク後半 30 分)</p>
浜辺委員	<p>それでは時間になりましたので、今日はここまでにしたいと思います。今日のワークショップの形式はワールドカフェ方式と言って、自由に議論を進めていただくものでした。最後、感想的なこと、どんな話だったのかも含めて発表していただけますでしょうか。</p>
濱本委員	<p>A チームは愛南町海業 SDGs の実現について、特に農林、水産業におけるごみ処理に焦点を当てて話し合いました。特に、カキ殻を再利用するという案もここ 1 年くらいで現実味を帯び</p>

発言者	発言内容
高橋委員	<p>てきました。カキ殻は塩抜きをする必要があります、場所の問題もあります。これを海業を通じて問題解決できないか、さらに、カキの殻を砕いて農業などで肥料として活用するアイデアも出ました。臭いがあるので、その解決策を模索する必要がありますことなどについて話し合いました。</p> <p>Bチームは、アクティビティ同士のネットワークの構築について、いくつかのアイデアが出ました。最初に、宿泊施設をベースに据えると効率的なつながりを築けると考えました。そのためにはまず、利用可能な宿泊施設のベッド数や宿泊数、稼働率、そしてスタッフが直面している現状を正確に把握することが大切です。次に、事業者同士のつながりを増やすことです。新しいアイデアとして、ボートやダイビングなど海に関する免許合宿を旅行パックとして提供することを考えました。他にもふるさと納税を活用して、地域や地区全体で利用できる共通のクーポン券を作るなど、様々なアイデアが出ました。</p>
大野委員	<p>もう一つのBチームは、ライトなお客さんに対して、予定していたアクティビティができない場合の代替案を提供することが重要だと考えました。観光協会ができれば良いのですが、限界もあるので、自分たちでできる対策を考えました。具体的には、各業者が発信する SNS 情報を集約することで AI を活用すればある程度答えられるのではないかと、各業者が NG を発信した場合に、他の情報に誘導する発信ができるような仕組みがあるといいねといった内容です。そのためにも各業者がリアルタイムで情報発信していくことが大事だと思います。</p> <p>天候に左右されない愛南町らしい何かを楽しめる施設、今検討されている 10 億円の海洋センターなどができると、「今度は晴れた日にまた来ようね」と思ってもらえるようになるのではと考えました。</p>
濱委員	<p>Cチームです。人工ビーチの造成などによる気軽な海体験がテーマでした。人工ビーチを造成については、台風が来たとしても来なかったとしても、波の力、風の力によって、投入した砂を維持することが難しいという専門家の意見があり、人工ビーチは要らないということになりました。代わりに、初期投資は必要ですが、町内の天然ビーチを官民で清掃して整備するこ</p>

発言者	発言内容
前田委員	<p>とを考えました。そうすることでバイオスポットや海水浴場が復活して、ダイビングも活気づくのではないかと。愛南の海の中の素晴らしさをわざわざ見に来るダイバーの人たちにお金を落としてもらう仕組みができるのではないかと思います。将来的に愛南町民のライセンス保持率が上がり、海に潜りやすい環境になることで、ダイビングの町として潤っていただけるのではと考えました。</p> <p>Dチームは、観光ガイドの育成と交流促進について議論しました。イメージとしては語り部となり、愛南町のいろいろなことをテーマにして語る話をしました。石垣、昔の水産業、自然のこと、日常の暮らしを含めて語る人がいるといいです。語る人は、まず知っている人を発掘する、学生に総合的学習の時間で勉強していただき、検定をして話してもらい、英語もあります。日常の暮らしはおじいちゃんおばあちゃんたちに話してもらうことを話しました。そういう話を、石垣ならば外泊に、紫電改なら馬瀬にという具合で、なければ新たに拠点を作りながら考えていく話をしました。</p> <p>次に、交流につなげる話をしました。愛南町に来た人が自分の関心のあるものを選んでもらう、その際に相談や案内をするコンシェルジュ的な機能が考えられました。その機能を1か所に置くこと、分散して置くことどちらも必要です。ターゲットは、少しコアな人、マニアの人、研究したい人たちを相手にして、「着地型の観光」が展開できたら交流につながるという話が出ました。来た人が相談しながら自分でチョイスして、ストーリーを作って自分事化することで、共感して共有できるものになっていく、メニューを細かく分解してそれぞれワークショップしながら伝えていくような取組ができれば良いと思います。</p> <p>マラニックでもインフルエンサーの人が来てくれて、いろいろなことをアピールしてもらいましたが、そこを持続可能なものにしていくためにどうしたらいいのか考えていくことが大事です。これは体験、季節、時間、ターゲットによって無限に広がる話です。全てできるわけではないので、愛南町でこれ、という形を見つけてやっていくのはありかもしれないという話をしました。</p> <p>海業を契機に、この委員会とは別に活動チームができて、自分たちが勝手に「これ検討したいな」というグループができた</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>ら良いなど、少し希望的観測も含めてお話ししました。</p> <p>ありがとうございます。たくさん情報がありました。自分たちで独自に活動チームつくるというのは面白いと思いました。そのようなつながりを事務局でもまとめていきたいと思いました。ありがとうございます。</p> <p>それでは、ワークショップの方、大分超過して申し訳ありません。これで終わりにしたいと思います。進行を濱座長にお戻しします。</p>
濱座長	<p>それでは皆様、活発な御議論ありがとうございました。最後にその他、連絡事項について清水からお伝えします。</p>
清水室長補佐	<p>皆様、本日はありがとうございました(以下連絡事項要点)。</p> <p>1点目：小中学生の絵と作文の投票について 2点目：次回の海業推進会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は12月12日か13日の午前中を予定</li> <li>・本会議、年4回の予定を5回に変更したい。</li> <li>・次回の日程や会議数について意見はアンケートに記入 ここで、田中純樹さんからお知らせがあります。</li> </ul>
田中(純)委員	<p>高橋さんの話にあった業者間の知り合いをつくること、前田先生の独自の活動チームという話も踏まえて、懇親会を提案します。日程等はまだ決めてないですが、今日いらしているカイク舎の森さんの所でできたらいいなと思います。</p>
浜辺委員	<p>ありがとうございます。懇親会は、次回の海業推進会議までの間に1回開催したいと思います。</p>
清水室長補佐	<p>これにて本日の主要な議題を終了させていただきます。本日の配付資料と簡単な議事概要は、後日公表させていただく予定です。本日は、御参加いただき誠にありがとうございました。</p>